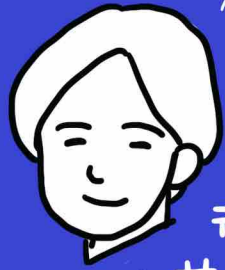


大企業とスタートアップの協業支援もしています

0-1 Booster
江本 祐太郎



多様な業界における デジタル変革事例



ヘルスケア領域の
DXビジネス立上げに
どう取り組まっていますか

富士通
デジタルイノベーション
井上 拓也

第6回
ビジネスイノベーションセミナー
2021.3.5

DXの捉え方

- 経営層 IT技術がある前提で事業を作り替える
- 事業部 自分たちの業務をITでいかに効率化するか
- システム部 IT資産を使い、どう売上に貢献できるか

それぞれの立場で「自分に何かができるのか」という

手段から考え、周りを変え、不確定な未来をコントロール

ITエグゼクティブ: サラス・サラスバシー

それは誰か
何を知っているか
誰を知っているか

DXすべき < DXしなきゃ < DXしたい!

お金がかかる

投資判断の軸を持つ

失敗する前提で許容
できる金額はいくらか
→ 770-900000

予算からできることを考える

500円/5万円/500万円

デジタルでできることを
アナログでやる

- 宅配 → 人 + トラック + WEB
- 音声AI → 人 + LINE

ToC 向けのツールを使う

Google Form - Facebook カルゴ
ホムカマ - ホムカマ - コトコト
ATOM Cam
ToC向けのツール
非デジタルを意識して作り
自分たちでできる
ことはデジタルでできる

何をしたら良い?

自分たちを顧客にしよう
スタートアップを探そう

カオスマップ どの会社があるか
BtoB - BtoC を使ってAtoCにできる

新しい領域に参入する
新しい視点で
見た問題を
解決

世元のスタートアップと
関係を築こう

世元のスタートアップに対して
何かができるか考える
何がほしいかではなく
どんな貢献ができるか

※ スタートアップ
を猛烈に稼働させて、
デジタルを使って推進する人

誰がドライブできる?

やりたい人がやる

新しいことは手上げがベスト
・ 活動費 00円
・ 業務時間 20%

googleの20%ルール
20%ルール

やる内容は制限せず、
その人が「こうあるべきだ」と
言った言葉を元に、その人が
やる事に任せさせる。

外部の人に委ねる

- 副業
- 客員起業家
- 外部で始まっている

事例 医工連携プロジェクト

薬性易度が高い機器をつくらう!
デジタルテクノロジーを何としても使おう!

規制の強い業界では、
新規参入企業の主戦場は
そこではない。
→ 一般企業が参加可能な製品
・ 開発サイクルを短期化する
・ 販売のハードルが低いモノを作る

新規、改良型 一般医療機器または医療用雑貨の開発
※ 汎用的で 標準化可能

採血 ← 馬区血帯
1500円 × 150万人
看護士さんが自由に選べる
かわりな品補充
市場が「大きすぎる」と大企業が参入してくる
リード・プレイヤーになるかどうかが見極めも重要

全ては患者様のために... 看工連携プロジェクト

- 医工連携... 医学部と工学部が連携して医療機器をつくる
- 看工連携... 医療従事者(看)とものづくり関係者(工)が連携して医療機器をつくる

ビジネス = 困りごとを解決してお金をいただくこと
既存領域 ↓ 新規領域 ↓
モーションアップ ↓ スキルコミュニケーション改善 ↓
ビジネスを成功させる

DXは誰か
誰か = 安価にスキル
DXのメリット
大事なのは

- 新しいことを始めるとき
自分が大切にしていること
- ・ スコープを決める
- ・ 仲間をつくる
- ・ 試行錯誤する

最新技術を使うことでも
考えすぎず普通なものごとを進めていくことでも
ビジネスを成功させること

使うのが難しい
完成まで時間がかかる
作っても売れないものは
いい? 悪い?

非営利、NPOとして、
市民活動の伴走支援を行っています、
マネタイズの部分から難しい、
活動力が「み出せない部分」がある。
非営利団体なので、非営利同士では
つながれるので、営利団体とつながる
ハードルがない。どうしたらつながりやすいか?

自分の場合は、大企業にいて、
そのあたりの重荷が難しいと感じ、
自分でNPOを立ちあげた経験もある。

基本的に民間の営利団体であっても
ビジョン(社会を良くする)があって動くので、
そこにクロスできる、というのがベスト。
同じビジョンを持って、いかに近づいていく感じ。

逆に大企業にいて、ToCへのハードル、
地域へのつながりはないことも多い。
だから補完しあえる部分もあると思う。

法人格があると契約がかわるから...
イベントやプロジェクトという形が
連携しやすいのではないかと。

目的思考か課題思考か。
オープンに、お互いについていけるものを持ち寄り、
連携を進めるのが良さそうですね!